



医学部

教授 山内 葉月さん (母子看護学)

Yamauchi Hazuki

●プロフィール

- 1970年 熊本大学医学部付属看護学校・助産婦学校卒業
- 1984年 熊本商科大学商学部卒業
- 1988年 日本大学文理学部卒業
- 1995年 熊本大学医療技術短期大学部講師
熊本学園大学大学院経済学研究科経済学専攻修士課程修了
修士(経済学)
- 1997年 山口大学医療技術短期大学部教授・医学部保健学科教授
- 2002年 熊本大学医療技術短期大学部教授
- 2003年 熊本大学医学部保健学科教授
- 2004年 山口大学大学院医学研究科修了 博士(医学)

さまざまな学問を通して、「母子の健康」を考察

医学部保健学科の前身である看護学校を卒業してすぐに、恩師の勧めで、山内さんは高等学校の看護科の教師になります。以後、現在に至るまで看護教育一筋ですが、山内さんの経歴には多彩な学問を学んできた足跡があります。

働きながら、学園大学の前身である熊本商科大学商学部で学び、卒業後は日大文理学部英文科に編入学し、学園大学大学院修士課程では経済学を学びます。商科大学では商業科教育法を学ぶことを通して、同じ職業教科である看護学について看護科教育法の確立を試み、併せて、看護労働についての研究をしました。英文科ではナサニエル・ホーソーンの小説『緋文字』を卒業論文のテーマに選び、私生児を抱えた主人公の生き方に対して、母性看護の視点から分析を試みました。また、看護教員をしながら商学部と文学部で学ぶ間に、それぞれに関する高等学校・中学校の教員免許も取得しています。

経済学の分野では『労働力再生産からみた母性看護の基本問題』をテーマに修士論文を作成し、医学の分野では『妊婦の健康に及ぼす夜勤の影響』で博士号を取得しました。このように、多彩な学問分野の視点から、「母子の健康」という一貫したテーマを、山内さんは追い続け、考え続けてきたのです。

自分に合う何かを見つけて仕事に活かす

助産学について学生に教える毎日ですが、看護学の実習を経験する過程で挫折を味わう学生も出てくるといいます。誰にでも得手不得手があるのだから、そんな時でも「決して諦めないで欲しい。ひとつのことだけで判断しないで。」と、山内さんは願います。例えば、技術を学ぶことが好きな学生もいれば、人と関わることが好きな学生もいます。仕事とは多面的なものなので、毎日を大切に学んでいけば、必ず自分に合う場所が見つかるものだそうです。「私も、教職が自分に向いているか迷うことは今でもあります。でも、色々な点で自分の工夫を生かせる職業なので、楽しいですよ。若い人たちと関わるのはエネルギーをもらえますし」。

子育てをしながら働く女性の支援を

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは、性と生殖に関する健康と生命の安全を女性のライフサイクルを通して権利として捉えようという概念です。このためには、男女が共に性に関する正しい知識を持つことが重要です。熊本県看護協会の助産師職能委員長も務めている山内さんは、幼少期から思春期までを対象にした次世代育成事業「健やか親子21」として、性教育の出前授業を行うなど、大勢の母親と子どもたちのために様々な活動をしています。出産の場所が家庭から病医院に大きく推移したことから町や村からお産婆さんの姿がとても少なくなっていた経緯にも触れ、助産師の自立した働き方を支援する活動にも力を注いでいます。「自分の学んだことを社会に還元していけるような仕事ができるといいですね。働く女性が赤ちゃんを産み、育てていく上での社会的支援を、これからもずっと続けていきたい」と、おっしゃいます。



医学部保健学科の助産学実習室にて

看護学・助産学教員という職業を通して。